語学教育研究論叢第23号

レバ条件文における文脈的機能
—論理関係と節末・文末表現に注目して—

田中　寛

On the Functions of "reba" Conditional Sentences in Context:
Focusing Logical Relation and Clause-final and Sentence-final Expressions

TANAKA Hiroshi

Abstract

To date, "reba" conditional sentences have been studied mainly as a defining characteristic. This paper aims to broaden discussion of the functions of "reba" conditional sentences, and to elucidate a unified explanation of these constructions, considering a range of semantic characteristics. First I explain that insistence of "reba" is reasonable and logical, adding to these functions, imply a universal meaning, with the sentence pattern, representative a kind of nature "mono" appearing either in clause-final or sentence-final position. Finally I'd like to demonstrate the characteristics in expression or "reba" conditional-sentences, and confirm the necessity to explain these based on the structure of context.

【要約】

条件文のなかでもレバの特徴はこれまで必然性をあらわす点を中心に考察されてきた。本稿ではこの必然性の意味的な特徴を多角的に検討することにより、

レバの統一的な説明を試みるものである。まず、レバの主張が道理的、論理的であること、また主張の内容が普遍性を含意する＜モノ＞的な性格を有する点を種々の節末、文末的特徴から解明し、レバ条件文の表現的な特徴を明らかにする。以上の考察から、レバ条件文の意味構造を、文脈構造に拠って説明することの必要性を確認する。

キーワード：レバ　論理関係　＜モノ＞的　必然性　文脈的機能

1．はじめに

かつて筆者は日本語の授業クラスで外国人学習者に条件文の簡単なテストを試みたことがある。その趣旨は前件を受けて、後件にどのような文が生起するのか、といった表現意図、使用の傾向を明らかにするというものであった。たとえば、「京都へ行く」という内実を共通の前提条件とする前件に対して、筆者のイメージした主文は以下のようなものであった。

a. 京都へ行く<u>ト</u>、　…違う世界に来たような気持になる。（結果の表出）

b. 京都へ行け<u>バ</u>、　…日本の古い文化に触れることができる。（一般的認識）

c. 京都へ行っ<u>タラ</u>、…何かお土産を買ってきてください。（伝達的意図）

d. 京都へ行く<u>ナラ</u>、…秋が一番きれいだ。（迂言的提案）

ところが実際の作例をみると多くの重複が見られ、四つの形式のいずれを用いても成立する文が大半をしめていた。学習者に共通して認識されているのはトには要求などの話し手の意図をあらわしにくいという点ぐらいである。もちろん、ここには回答者に文の認識、使用場面の想像力など、様々な個人差があらわれるが、それ以上に条件表現の内包する一般的な法則、原則についての不透明な背景があげられるだろう。

ト、レバ、タラ、ナラという四つの条件形式の意味的、機能的な弁別をめぐってはこれまでに多くの議論がなされてきたものの、なお明確な共通理解を得ていない。このことは逆に、条件文の理解が当該条件文内部の構造にとどまらず、文を越えた談話レベルの研究、前後の文脈的構造、背景を考慮する必要が大なることを物語っている。また、上記に示した傾向は日本人の一般的認識、

経験から帰納されるところのもので、その深層を綿密にかつ明確に記述する作業は容易なことではない。それぞれの語感（文感）は当該文の<内在>的な意味のほかに、前後の<外在>的な意味にも支えられているからである[1)]。

条件・帰結の成立には偶然的な背景と必然的な背景とがあることは、これまでにもよく議論され、おおかたの認識とされているところである。前者ではト条件文にその傾向を認め、後者ではレバ条件文に特徴を見いだしうる。上記例の「京都へ行けば」に続く文の性格を見ても、一定の共通認識に支えられた常態が想起されるであろう。本稿ではこうしたレバのもつ構造的意味と普遍的な意味関係とが、どのように構成されているのかを検証するものである。

一般にレバ条件文の特徴として、

ア．PQの関係において論理性が高く、書き言葉的である。

イ．前件と後件の内容が偶有的ではなく、必然的な結びつきがある。

ウ．対比的な言い方をはじめ、特徴的な表現が見られる。

といった特徴が列記される。だが、観察者の観察態度などによっては、これらの説明がすべて妥当で、客観的な立証に支えられているかといえばそうではなく、なお明確な本質の解明に至っていない部分も少なくない。書き言葉的、フォーマルといっても、話し言葉にも十分あらわれるし、フォーマルという定義もあいまいである。したがってデータとしては書き言葉のみならず、話し言葉をも視野に入れることが義務づけられる。本稿ではこれまでの研究を補完しながら、レバの文脈的な機能を明らかにしたい[2)]。

2．レバに見られる事態の普遍性

複文、とくに従属節と主節が結合する条件として、前件の契機が後件の帰結に対して何らかの有契的な条件を附帯していることが必要である。だが、その結合のあり方には緩急、強弱があり、現象の偶然性、必然性を言語化する背景ともなっている。主要な条件形式についてもこうした観点からの考察が主流を占めてきた。レバ条件文が次のような諺、教訓（訓戒）、慣例的な言い伝えなどに比較的頻出することは従来から指摘されている[3)]。これらは話し手の評価、

主張を強く表出するものであった。

(1) 住めば都、急がば回れ、三人寄れば文殊の智恵、備えあれば憂いなし、犬も歩けば棒に当たる、勝てば官軍、塵も積もれば山となる、朱に交われば赤くなる、待てば海路の日よりあり、喉元過ぎれば熱さを忘れる、風が吹けば桶屋が儲かる、来年のことを言えば鬼が笑う、空に夕焼けが見えれば明日は晴になる、…

「勝てば官軍」では「勝利者の主張が結局は正義とみなされてしまう」という結果的事実を具体的な例をイメージとして下敷きにしながら述べるものである。そこには外的な規定や見解、認識の蓄積があり、個人的な力関係ではいかようにもできない外側の強い関係—本稿では一種の既得権益と見なす—が働いている。言わば、世間、外部世界を強く意識した説明である。その結果、ト条件文が対象内側の事象の仕組みを<コト>的なものとして描いたのに対して、レバには事象を外側から有意義的に統御する形で<モノ>的に述べる特徴が観察される。トは各々の現象の断面、局面であり、レバはそれらを包括するような現象の総体であるといってもよい。分かりやすい例でいえば、話し手の叙述にあらわれるある種の感慨、諦念があげられる。それらはその場かぎりの発見、観察、判断にとどまらず、そこにいたる様々な認識的経験に支えられた、あるいは獲得された思考、習性の産物であるといってよい。次の例はこうした意識の堆積を必然的な結実として述べたものである。

(2) 打てば響く、話せば分かる、ああ言えばこう言う、やればできる

(3) 柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺

(4) 田子の浦うち出て見ればしろたえの富士の高嶺に雪は降りける

(3)では「柿を食う」という行為が「法隆寺の鐘が鳴る」事象の有機的な起因とは言えないものの、作者の心象風景の中には、それを契機に宇宙の営みを必然的に感受する。「柿食えば」という発句は季節感をも含めた壮大なる宇宙の啓示となっているのである。また(4)では、古来富士を望む景勝地であった田子の浦に立った時、絵のような景色に出会った情景が心に描いたそれとして投影されている。それは個人的な体験ながら、万人の感動にも波及するものであ

る。こうした心象投影は歌詞、歌謡、言い回しにも多く見られる。

(4) a. 吹けば飛ぶような将棋の駒に…（王将）

b. 会えば別れが辛くなる…（池袋の夜）

c. 飲んで騒いで丘に登れば遥か国後に白夜は明ける…（知床慕情）

(5) 海行かば水漬く屍、山行かば草むす屍。大君の辺にこそ死なめ顧みはせじ。　（万葉集巻 18 大伴家持長歌、信時潔『海行かば』1937）

(6) 噂をすれば影とやら。（「何とやら」ともいう）

(7) 山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。―

（「草枕」）

このような表現世界は作者のなかで醸成された、一種の確信的な経験に基づく内省的な判断である。つまり、話し手の意識には＜P→Q＞という“回路”があって、その線上に言及する事象の推移が投影されていくのである。既成の原画に薄紙を重ねて輪郭をなぞっていくといったイメージに近い。契機と帰結の筋道に、綿密な計算と内省によるところの一貫性があり、理路整然としたところがあるので、それが書き言葉などフォーマルな文体としても用いられる傾向にもつながっていく。人口に膾炙した夏目漱石の『草枕』冒頭の有名な一節もまた反芻に反芻を重ねた処世訓であった。

このようにレバの内側にある目論見が、話し手主体の経験的な確信にもとづくものであるとすれば、後文（主文）にはどのような文のレベルが対応するのだろうか。

(8) a. あの山を越えれば、目的地はもうすぐだ。

b. もう一頑張りすれば、結果は目前だ。

c. 彼女、誘えば、すぐ来るよ。

d. 横になれば、楽になる。

e. 急げば間に合う。

f. 努力すれば報われる。

g. 明日になれば、痛みもやわらぐことだろう。

h. 病状が少しでもやわらげば、と祈っています。

ここにあげたレバの文例には、ある種の経験の反芻によって裏づけされた結果、成果の獲得に対する期待（希望的観測）が込められているといえよう。何らかの見通し、可能性を前提とした発話である。やや形式化した「…バと祈る」のレバは「やわらぐように」（目的）、あるいは「やわらげ」（祈願）の意味を含意している。レバにはトにもタラにも代替できない、話し手における表現レベルの信憑性が認められる。

(9) そしてかれらには、「これだけ読めば戦は勝てる」と書かれたパンフレットが配布された。それは、南方作戦研究の秘密機関であった台湾軍研究部の作成したもので、…　（大本営が震えた日 p.180）

「これだけ読めば」のレバをトやタラであらわしたのでは、士気は高揚するどころか不安を誘うものになろう。このように、レバは話し手の中に絶対的なものを希求するものがあってはじめて表出される。

一方、レバには主題的、命題的というニュアンスが含意されることも少なくない。これもレバのもつ必然的な帰結を要求するところから生まれた本質である。一方、常時的な発生が期待されはするものの、常に現実的な側面と必ずしも相容れるものではない。そこには一種の理想、願望的な趣旨設定も介在する。つまり「…レバと祈る」のような期待値となってあらわれる言い方はその一例である。いずれにしても話し手の心的な姿勢はタラやトよりも強固なものであることは確かであろう。以上、レバが喚起する心的姿勢として、経験の蓄積にもとづく内省、感慨といった側面を指摘した。

3．レバ条件文の概観

ここでは従来の研究に沿って、条件文全体から見たレバの特徴を確認しておこう。有田・蓮沼・前田(2001)によれば、レバ条件文は次のような特徴で記述されている[4]。（条件P、帰結Qをそれぞれ X、Y であらわす。例文も引用による。例文は通し番号）

A)　XがYの成立する直接的条件や状況を表す場合、バが用いられる。タラ

とは重なるが、トはあまり使用されない。

(10) 課長に{なレバ／なっタラ／?なるト／?なったナラ}、給料が１０万円上がる。

B) Xが Yの直接的条件ではなく、単なる状況の設定を表す場合はバは不適切である。

(11) この道をまっすぐ{行くト／?行けバ／行っタラ／??行くナラ}、右手に白い建物があります。

C) Yが依頼・命令・希望・勧め・許可・義務などを表す場合、Xが状態述語にかぎってのみレバが用いられる。

(12) a. 時間が{あれレバ／あっタラ／??あるト／あるナラ}手伝ってください。

b. 明日{?来レバ／来タラ／??来るト／?来たナラ}、先生の部屋に寄ろう。

c. 二、三分{?たてバ／たっタラ／??たつト／?たったナラ}、水を足したほうがいい。

D) Yに疑問(語)表現が現れる場合、レバは使いにくい。

(13) a. どう{すレバ／しタラ／するト／??するナラ}、成績が上がりますか。

b. こう{するト／??すレバ／しタラ／するナラ}、どうなりますか。

E) Yが否定的な結果を表すときはレバは使いにくいが、Xが否定表現の場合はレバも使われる。

(14) a. この薬を{??飲めバ／飲んダラ／飲むト／?飲むナラ}気分が悪くなります。

b. この薬を{飲まなけレバ／飲まないト／飲まなかっタラ／飲まないナラ}、気分が悪くなります。

F) Xが今成立している事実を表すときは、レバはタラと同じように使われる。

(15) ここまで{来レバ／来タラ／?来るト／来たナラ}、あとは一人で帰れます。

G) 事実に反する条件文（反実仮想文）にはレバがタラと同じように使われる。

(16) 朝一番の電車に乗って{いレバ／いタラ／??いるト／いたナラ}会議に間に合った。

H) XとYが一般的な因果関係、法則的な関係、現在・過去の習慣的関係を表す際に用いられる。タラ、ナラはあまり使用されない。

(17) a. 体温が{上がレバ／上がるト／?上がっタラ／?上がるナラ}汗が出る。

b. 二十歳に{なレバ／なるト／なっタラ／??なるナラ}自由に結婚できる。

c. 組んで{しまえバ／?しまうト／?しまっタラ／??しまうナラ}、日本選手が有利だ。

d. 私はお酒を{飲めバ／飲むト／?飲んダラ／??飲むナラ}、気分が悪くなる。

e. 子どもの頃、休みに{なレバ／なるト／?なっタラ／なったナラ}、父は私を海や山へ連れて行ってくれた。

A）からH）はそれぞれ、一般的因果関係、法則的関係、傾向、現在の習慣、過去の習慣、およびそれらがもたらす確信、信憑性をあらわしている。このほか、慣用的な形式として、次のような言い方が顕著である。

I） 同時に成り立つ二つの状態、状況を並列的に表すのに用いられる。

(18) a. 庭には梅もあレバ、桜もあった。

b. ああ{言えバ／?言うト／?言っタラ／??言うナラ}こう言うし、
こう{言えバ／?言うト／?言っタラ／??言うナラ}ああ言う。

レバには一般的には以上のような規則が見られるが、それぞれの用途の成否には語感によっては線引きが難しいこともある。たとえば、D)の主文のムード性についても制約の強弱は一定ではない。さらに、E）のXが否定表現の場合、

(19) この薬を{飲まなけレバ／飲まないト／飲まなかっタラ／飲まないナラ}、病気は治りません。

主文との結合度でいえばレバがもっとも強い。複合辞「ナケレバナラナイ」に象徴的なように、レバは原則を強く意識した条件文であることが確認される。以下では、レバの用法を基本的にはこれらの特徴をふまえながら、レバに共通

する意味的な構造に注目して考察を進めていくことにする。

4. 主文文末の特徴的な形態

２節でレバの意味的な特徴として経験的な内省が主張の背景にあることを述べたが、そうした判断的な叙述が主文の文末にどのような傾向、特徴を与えているかをみておかねばならない。普遍的な命題を叙述するという性質から後件主文にもその性格は反映され、一定の特徴が観察される[5)]。(20)から(22)の用例には文末の「もの」との照応関係が顕著であるが、レバの＜モノ＞的な叙述の典型で、感慨、確認、習性の具体的な表白となっている。

(20) 変われば変わるもんだね。(変化の早さ、程度を意外に受け止めて)

(21) 捜せばあるものです。(古本屋を歩いて稀少本を見つけたとき)

(22) 子どもは穴があれば、それがどんな穴でも物を詰めたり、指を入れたりするものである。小児科医であれば、おもちゃのピストルの弾を鼻の穴に入れた子どもを診察した経験が誰でもあるものだ。

(讀賣 04.5.14)

「…バいいというものではない」はその定型化のやや進んだ形式であろう。

(23) 論文というものはは長く書けばいいというものでもない。

文末の断定のあり方をめぐっては「しかない」「のは確実だ」などもよくあらわれる。

(24) 少子高齢化が急激に進む日本の現状を考えれば、全世代で負担を分かち合うしかない。 (讀賣 04.6.11)

(25) 出生率低下が加速すれば、それに伴って、日本の労働力人口が急減するのは確実だ。 (讀賣 04.6.11)

次に散見されるのは断定、主張の「ノダ」である。確実な経験的内省を濾過したあとでは、結果はおのずと予見され、一定の信憑性を附与されて定位される。

(26) 私は来る日も来る日も、薄氷を踏む思いで過した。もし、ここで汚職事件が起れば、署長として私は責任を問われ私の出世は一時停止する

のである。（歪んだ複写 p.385）

「ナル」「デキル」もまた、ことの帰結の大勢を呈するものである。用例では予想通り、予定通りの事態実現が、かなりの高い確率でもって提示されている。

(27) 議定書が発効すれば日本が世界に公約した二酸化炭素などの削減が現実の課題となる。（讀賣 04.10.1 朝刊）

(28) 指導者の誤謬と核が結びつけばどうなるか。我々はとてつもなく危険な時代に直面している。北朝鮮が本格的に核兵器の生産体制に入れば、日本もこれに続くだろうし、それはアジアの平和を脅かすことになる。（讀賣 04.10.1 朝刊）

(29) 今回の手術が広まれば、辛い糖尿病に苦しむ患者を根本的に治すことができる。（讀賣 04.4.25 朝刊）

「バカリダ」（「一方ダ」）も断定の類型を成し、事態発生の恒常性を示唆する。

(30) 人々の不満に占領軍は銃でしか対応しないという印象が強まれば、誇り高いイラク人の怒りは広がるばかりだろう。（朝日 04.4.6 朝刊）

(31) 年金保険料の無駄遣い、ずさんな徴収体制、年金個人情報の流出と、年金不信を増幅させた社会保険庁の問題点を挙げれば、切りがない。（讀賣 04.6.18 朝刊）

(31)のような「キリガナイ」などの慣用的な述語も明確な断定をあらわしている。なお、限定表現では次のような「マデ」も顕著な傾向を示す。「ソレマデダ」は限界、それ以上の行為遂行の不可能を提示する。

(32) どんなに準備万全で臨んでも、直前に怪我をしてしまえば、それまでだ。

(33) 「そうだね、一切を無意味だといえば、それまでだが、ぼくはすべての言葉を意味深く感じ取って生きていきたいと思うよ」（「塩狩峠」）

(34) 断わられれば、自分でやるまでのことだ。

「マデノコトダ」は強い決意、断定である。次の「ナケレバナラナイ」「アリエナイ」も断定の類型と見なしてよいだろう。

(35) サイクルが中断されるようなことになれば、地元と日本原然との覚書きによって使用済み核燃料を運び出さなければならない。

(讀賣 04.6.18 朝刊)

(36) 今後いかなる原子力路線をとるにしても、燃料の行く末を考えておかなければ、原子力の長期利用はありえない。 (朝日 04.5.20 朝刊)

「話ハ別ダガ」は例外的な事象の出現を注釈的に述べながら、ある一定の趨勢をあきらかにする言い方である。

(37) 雪でも降れば話は別だが、これほど遅れてくるとは非常識だ。

<可能性の示唆>としての「ダロウ」「カネナイ」「恐レガアル」「カモシレナイ」「ニチガイナイ」も一定の経験の蓄積によって獲得された結論、論旨をあらわす。

(38) 今後北朝鮮が核廃絶に応ぜず、緊張を高めるようなことがあれば、制裁措置を取る場合でも、G8は足並みをそろえやすくなるだろう。

(讀賣 2004.6.11)

(39) 「もしそうだったらその横井という人を使おうじゃないか。そんな貧乏暮らしで酒好きなら、御馳走してやれば、案外働いてくれるかも分らないよ」 (「歪んだ複写」)

(40) 「あの署長の女房の親父は元次官だからね、黙っていても、あの男は相当な地位までは行くだろう。運がよければ、次官ぐらいにはなるかもわからないよ」 (歪んだ複写 p.288)

「カネナイ」およびこれに準ずる態度表明もまた、レバを受ける必然的内実を提示する。

(41) 米長さんの発言に対して天皇陛下があいまいな応答をすれば、そのこと自体が政治的に利用されかねない。 (朝日 04.10.30)

(42) 平野大佐に対しては、「決して手出しをするな」と厳重な命令をあたえはしたが、攻撃をしかけられれば、機雷敷設艦もそれに対して応戦する事態が発生しないとは言い切れない。 (「大本営が震えた日」p.168)

(43) 日本が領土問題に固執し、経済協力を後回しにすれば、ロシアは他国との関係を重視するようになり、問題解決が逆に遠のく恐れがある。

(讀賣 04.9.1 朝刊)

(44) 前米財務副長官のダム・シカゴ大教授は（中略）「米経常赤字の大きさを考えればドルが下落するのは自然だ」と述べた。

（讀賣 04.4.11 朝刊）

(45) 並行して走っている車と少しでも接触すれば、大事故になるにちがいなく、かれはドアの把手をつかみ、体をかたくしていた。

（「仮釈放」p.29）

主文は総じて一種の内省にもとづく断定をあらわしている。新聞の論説に多用されるのもこれまでの事態の推移をふまえての見解を確認したいという背景が考えられる。また、主文文末に一定の形式があらわれなくても、判断的要素の背景に必然性は常に念頭に置かれる。次の「揺らぐ」のあとには「のは当然である」「のは確実だ」「のは決まっている」「のは目に見えている」「のは明らかだ」といった姿勢が潜在的に読み取られる。

(46) 「やれやれ。女も出来合ってしまえば、男に弱い」

（「歪んだ複写」p.106）

(47) 天皇が政治に巻き込まれれば象徴天皇制の根幹が揺らぐ。

（朝日 04.10.30）

(48) もし、超高速の列車が事故を起こせば、人命の犠牲は計り知れないばかりか、安全性に問題が出てきて、それこそ取り返しがつかなくなる。

（亜細亜新幹線 p.60）

(46)は「女も」や「出来合ってしまう」、(47)は「根幹が揺らぐ」といった表現語句にもささえられている。(48)ではレバ以下では「ばかりか」の内実に加え、副詞「それこそ」によって一層、重大な結果を招くのは必至であることが述べられている。「それこそ」はレバの論理性を支えるうえでしばしばあらわれる。

(49) 相当前から、（予算が）超過することはわかり切っていた。しかし、完成しなければそれこそ何の役にも立たないものであり、最後は大幅な超過も覚悟のゴリ押しで進めた。（亜細亜新幹線 p.65）

レバの主張には裏付けが重大な関心事であり、しばしば「したがって」とい

う誘導的な接続語をともなって結論を導くことがある。

(50) 米人スチュワード機長はアメリカのエアライン・パイロットの有効な資格をもっており、また東京羽田・福岡板付間の航空路線にも「かなり馴れて」(日航発表) いた。したがって館山から大島のラジオ・ビーコンに乗る前に標高約二千五百フィート (七百五十メートル) の三原山が存在していることは機長は十分に知っており、したがって墜落現場の上空を二千フィートという低空で計器飛行すれば当然に山腹に衝突するのも分っているはずだった。

(一九五二年日航機「墜落」事件 p.50)

断定度の強さでは主文において「(当然) …ハズダ」が多く観察される。

(51) デモには老人や子供も加わっていた。占領軍の側にはデモ隊の一部から発砲があったからといって反撃すれば、多くの犠牲者が出るのは分っていたはずだ。 (朝日 04.4.6 朝刊)

(52) 捜査への協力者などが特定されないように工夫すれば、ほとんどの会計文書は会計検査院などに見せることができるはずだ。

(朝日 04.5.20 朝刊)

(53)《乗客は座席バンドを締めていない。旅客機では操縦者が危険を感ずればまず乗客にバンドを締めるよう指示するはずであるから、操縦者は接地直前まで危険を感じていなかったものと思われる》

(一九五二年日航機「墜落」事件 p.125)

(54)「さあ。墜落の音響を聞けば当然に登山したはずだがね。墜落音を聞いてないのかね」 (一九五二年日航機「墜落」事件 p.134)

(55)「君たちは、どうしてここに用事があって来たのかね？」これはふたりにとって痛い質問だった。正直に言えば、自分たちでやってる内容が警察に判ってしまう。 (歪んだ複写 p.262)

この延長に「モノダ」「コトダ」などとの呼応も観察されるが、紙幅の関係で省略する。

次は複合的な文構造で、「ダケニ」という従属節にレバ (ナケレバ) が包摂

された構造を呈しており、主文の主張における限定条件をより明確にあらわしている。

(56) 脳死と診断されなければ、家族は医師の提案に同意しなかったかもしれないだけに、この医師はどこまで理解して、一連の措置をとったのか疑問が残る。 (讀賣 04.5.14)

「ダケ」は「ほかのことはともかく」といった確実性を含意して、次のような情報、知識の提示にも高い頻度であらわれる。

(57) 久野は、二ヵ月足らずしか広東にいたことがなく、くわしい地理はわからない。しかし、西北に向えば珠江にぶつかることだけは理解できた。 (大本営が震えた日 p.95)

(58) 「これだって氷山の一角だよ。彼らに言わせれば、ばれたのは運が悪かっただけなのさ」田原典太は、頭の毛をごしごしと掻きながら言った。 (歪んだ複写 p.396)

「レバ…トコロダッタ」もまた予定の確実性を示す言い方である。

(59)「堀越みや子が横からあんなことをしなければ、今に崎山のしっぽを掴むところだった」 (歪んだ複写 p.273)

これは後悔、回避などをあらわす所謂「反実仮想」の用法であるが、タラなどとくらべても事態の切迫感、必然性がより明確である。以上、レバの特徴を主文文末にみられる顕著な表現形式に着目しながら考察した。

5. レバによる主題、命題の展開

5. 1 レバとハ

レバが間接的にハの総記的な叙述特徴に引きずられていることは、これまで必ずしも綿密に考証されてきたわけではない。本節ではこの点について再検討する。次にあげるように題目、主題をあらわすハはレバによる副詞節としてあらわすことが可能である。

(60) 少子化の進展は、日本経済の活力を奪いかねない。 (讀賣 2004.6.11)

cf. 少子化が進展すれば、(ソレハ) 日本経済の活力を奪いかねない。

(61) ウラン価格の高騰は電力の四割近くを原子力発電に依存している我が国のエネルギー事情に大きな影響を与えかねない。　(讀賣 04.10.1 朝刊)

cf. ウラン価格が高騰すれば…

(62) 出る杭は打たれる。

cf. 杭が出れば、(ソレハ) 打たれる。

(63) 立てばシャクヤク、座ればボタン、歩く姿はユリの花。

cf. 立っている姿は…、座っている姿は…

これらの現象はトやタラにも共通したもので、連体修飾構造と条件節、時間節の相関をみるうえで興味深い。

(64) a. 両側の建物に眼をむけながら歩いて行ったかれは、…

(「仮釈放」p.109)

cf. かれは両側の建物に眼をむけながら歩いて行くと、…

b. 答案を書いてしまった人はこちらに出してください。

cf. (誰か) 答案を書いてしまったら、(その誰かは) こちらに出してください。

(65) 話せば長いことながら、……

(65)も、「話すこと」という話し手にも聞き手にも共有される主題が時間の相応な経過を要するという判断を述べたものである。

5．2　複合条件文

レバの連続性は対比の特徴でも瞥見したが、その特徴の線上に、レバは比較的大きな文、連文単位を包摂することが可能である。

(66) 授業料が高かろうと、その大学を卒業すれば学生自身が「世界のどこに出ても一人で食べていける」という自信を持てるならばよい。

(讀賣 04.6.18 朝刊)

括弧の文[ ] (「と同時に」「ても」など) が挿入されるかたちで、主文に連なる。

(67) 条約が実行に移されれば、[核保有国の軍拡に歯止めをかけると同時に]、新たな核保有を防ぐ手段ともなる。　(朝日 04.9.26 朝刊)

(68) 追加議定書に基づいて IAEA が次々に視察できれば、[闇市場を通じて

ウラン濃縮施設などをつくっても、]早期に秘密実験を発見できる公算が大きい。 (朝日 04.9.26 朝刊)

これは複合、連鎖条件文としての分析が必要であるが、ここでは割愛する。

5．3　ナケレバ（「ネバ」）

ここで前件に否定があらわれる「ナケレバ」節（文語体の「ネバ」を含む）について、連接の特徴をみてみたい。「ナケレバ」は「ナイト」「ナカッタラ」と等しい機能を担うほかに、「ナケレバナラナイ」という義務を内包しながら、あえて言表化せずにその結果事態を述べるものである。前件「ナイ」が後件の「ナイ」と呼応・共起する場合は次のようなものである。

(69) 「俺もあとで、よくやったものだと、可笑しくなったよ」
「少し頭が可笑しくなければ、できませんよね」
(長く暑い夏の一日 p.256)

前件「ナイ」が必ずしも後件の「ナイ」を誘導しないこともある。

(70) 後任の新代表が三党合意をきちんと継承しなければ、責任政党としての成熟度が問われる。 (讀賣 04.5.11 朝刊)

(71) a.あと１０分待っても来なければ帰りましょう。
b. 行く気がなければここにいてもいいのですよ。

(72) 今の段階で適切かつ強力な手当てをしなければ今後も常に社会とのトラブルを起こす人格特性を強め、自他に重大な危害を及ぼす行動を起こすおそれが極めて高い。 (讀賣 04.10.1 朝刊)

6．レバの限定条件と意味的な機能

本節ではレバのいくつかの意味的な形式に注目し、普遍的な主張がどのように組み立てられ、伝達されるのかを考察していく。

6．1　…レバコソ

限定条件の典型としてここでは＜レバコソ＞をとりあげる。取り立てのコソは原因理由節にもつきそう成分で、後件の出来に絶対的な条件を保証するものである。

(73) 君のことを心配していればこそ、いろいろ忠告しているんだ。

つまり、「いろいろ忠告し」ているのは、「君のことを心配している」からにほかならない、という確かな論拠の提示である。<レバコソ>は、この<カラコソ>と隣接してあらわれる。(73)は次のように言い換えても内容に大きな変化は生じない。

(73)' 君のことを心配しているからこそ、いろいろ忠告しているんだ。

ただし、主文のあり方に限っていえば、同じ順接構造を示しながらも、<カラコソ>は既然的事態についての言及、<レバコソ>はこれまでの既然的事態に加え、これからの未然的な事態についても主張する姿勢をあらわしている。<レバコソ>は主文に「のだ」「ものだ」「にちがいない」などの主張をともなうことが少なくない。また、<レバコソ>、<カラコソ>は文末形式としても用いられる。

(74) 質問を発する記者の側に、手続き上の不備を指摘してこなかったという自己の責任の感覚が働いていればこそ、質問も鋭くなったにちがいない。 (朝日 2000.4.21)

(75) 厳しく叱るのは、我が子を愛すればこそだ。

6．2 …レバ…ホド

比較、漸増の関係を証左する<…レバ…ホド>は「につれて」「にしたがって」「にともなって」「とともに」などの漸進的な関係に言い換えられる[6)]。

(76) 南に行けば行くほど暖かくなる。

cf. 南に行く {につれて/にしたがって/?にともなって/とともに} 暖かくなる。

だが、次のような規則的な比例関係ではないケースは置き換えができない。

(77) a. 野菜は新鮮であればあるほどいいです。

b. 友だちは多ければ多いほどいいです。

こうした表現は事態を描写しながら、間接的に意見を提言、忠告「ダカラ、新鮮なものを求めなさい、友だちを多く作りなさい」といった論理的展開を導く。

(78) 隠された意味が分って以来、その推理小説の序章が浮かび上がってく

ると、不快なそして不安な心持に捉えられた。彼が避ければ避けるほどそれは頻繁に彼を独占し、執拗に纏わりついた。

(砂の上の植物群 p.13)

(79) 悪質な納税者があればあるほど、否認事例を多く作ることになる。

(歪んだ複写 p148)

(80) 私が出世すればするほど、彼の脅迫は酷烈になるに違いない。

(歪んだ複写 p.389)

ホドの代わりにダケ、ブンが用いられることもある。連体修飾構造ではダケが用いられる。

(81) a. 練習すれば練習するほど、上手になる。

b. 練習すれば練習するだけ、上手になる。

c. 練習すれば練習するぶん、上手になる。

(82) 努力すれば努力しただけの結果が待っている。

??cf. 努力すれば努力するほどの結果が待っている。

ダケ、ブンは「練習した分だけ」というように条件、努力に見合った結果がみちびかれる。

6．3 …サエ…レバ

サエは名詞に接続する場合、動詞連用形につく場合がある。その場合は<サエスレバ>の形になる。この表現はしばしば最低条件と称される。

(83) a. お金さえあれば、何でもできる。

b. お金がありさえすれば、何でもできる。

(84) 今のままでいて、それこそ「大過なく」過ごしさえすれば、定年までは安全に勤められる。 (鳥の影 p.82)

(85) 米空軍側の管制官が「もく星」号に適正な無電指示を与えたかどうかは、そのテープを聞きさえすればいっぺんに分るはずである。管制室と機長との交信記録が入っているからである。

(一九五二年日航機「墜落」事件 p.56)

(85)では主文文末に「ハズダ」という限定、断定表現の成分とも呼応している。

６．４　対比と並列

レバとモの共起については次のような典型があげられる。

(86) 海行かば水漬く屍、山行かば草むす屍、…（前掲）

「海へ行けば亡骸があり、山へ行けば亡骸がある」という両面の対等な対比をあらわす。これを対比のハを用いて、「海には…山には…」と言い換えても一向に差し支えない。このようにレバには「…かと思えば、一方では」という含意が濃厚である。こうしたレバの重奏はやや修辞的で、次のように多用される。

(87) 海雀、海雀、
　　銀の点点、海雀、
　　波ゆりければゆりあげて
　　波ひきゆけばかげ失する、　　（北原白秋「海雀」）

同一主体にしても「あるときはXで、あるときはY」という複数の状況を提示する。

(88) 中日がヤクルトに勝てば、（一方の）巨人は阪神に今季五連勝。

対比は類似的な事態の並列でなければならない。その意味では任意の例示的用法である。次の例では「探し回る」行為を基調としながら、多面的な行為の特徴を意味づけている。

(89) 財布がないと探し回れば車庫に置いた自転車の前かごにあったり、玄関の隅にあったり。眼鏡がないと探し回れば、洗面所に忘れてあったり、バッグの中にあったり。　　（讀賣 04.10.6）

後件主文では「XしYし」のほか「XたりYたり」なども援用される。

もう一つの対比はむしろ並列に傾斜したもので、「Xモ…バ、Yモ…」のように副助詞モをともなうものである。一般に述語は従属節、主節に共通したものがあらわれる。次の「いる」も「ある」も存在動詞である。対比の対象は＜ヒト＞、＜モノ＞、＜コト＞であったり＜トキ＞であったりする。

(90) 手の動きが、徐々に速くなった。髭をかすかにふるわせて眼をしばたたいているマウスもいれば、肢を宙にうかせて仰向けになり動かなくなっているものもあった。　　（秋の街 p.78）

(91) 父の下山日は一定していなかった。五日目におりてくるときもあれば、ときには半月もおりてこないこともあった。　(冬のかたみに p.7)

(92) これはひどく単純なゲームの感覚だった。重苦しく手間もかかれば足手まといにもなる。　(死よりも遠くへ p.35)

(93) 米国だって日本だって戦争遂行では必ず間違いを犯してきた。戦争には必ず不確定な要素がついてまわる。同士討ちが起こることもあれば、情報判断の誤りもある。　(讀賣 04.10.1 朝刊)

(94) 六畳の間にはタンスもなければ本箱もなく、古新聞紙を張った壁がそのまま顕われ、荒涼としたものであった。(歪んだ複写 p.138)

これらは「…し…も」とも言い換え可能のケースが多く見られる[7]。

(91)' 五日目におりてくるときもあるし、ときには半月もおりてこないこともあった。

(92)' 重苦しく手間もかかるし足手まといにもなる。

6．5　その他の特徴

「ヨウナコトニデモナレバ」、「トモナレバ」などの前件はレバの内省的な特徴を比較的明確にあらわしている。

(95) 鍵を落とすようなことに（でも）なれば、大変なことになる。

この場合、レバはテハに隣接している。

(95)' 鍵を落とすようなことになっては、大変なことになる。

もう一つは「ヨウト思エバ」の形で、同一の動詞が反復される。

(96) 食おうと思えば食えないことはないが、やはり抵抗がある。

さらにその類型として、願望表現を含む繰り返しも顕著である。

(97) a. 見たければ見てもいいですよ。

b. 笑いたければ笑いなさい。

これも当然の事態の推移を指してそのまま<許容>と判断して述べたものである。「ことを考えれば」は話し手の思い描く主題を提示する。

(98) 射殺され、捕獲されるクマは猛暑と台風の被害者だが、登下校の児童などにも危険が及ぶことを考えれば、そう同情してもいられない。

（讀賣 04.10.6 朝刊）

「…トアレバ」「…トアラバ」は「のであれば」の意味に近いが、主文には決意をあらわしたり、必然性の高い文があらわれやすい。(100)のように主文では「ますます」「なおさら」といった事態の漸進的な様相が述べられる。

(99) 大切な家族を守るためとあれば、私は命がけで敵と戦うつもりだ。

(100) 監査機能の強化は官民を問わず、日本社会が直面する課題である。（中略）まして、超高齢社会の到来で、租税や社会保険料などの負担が増えていくとあれば、その使途への関心がますます高まるのも当然だ。

（朝日 1999.11.30）

7．おわりに

レバ条件文は簡潔な表現を引用しながら、話し手の当為的な主張をあらわすことが少なくない。

(101) 小泉首相は十八日夕、政府・与党が合意した三位一体改革に関する基本的枠組みで、義身教育費国庫負担金の削減が明記されていないなど合意を優先したとの見方が出ていることについて、「それは節穴だ。よく眼光紙背に徹すれば、地方案を真摯に受け止めるというのがわかる」と語った。（讀賣 04.11.19、破線傍線は引用者）

しばしばレバの考察にあたっては文体的な特徴があげられるが、それは一面正しいようで必ずしも本質をついた議論にはなりにくい。簡潔性をささえる話し手の必然性といった発話意図、心的な姿勢を射程においてはじめて、本質的な姿が浮き彫りにされる。また、レバには「蓋を開けてみれば」「あわよくば」などのように、トにもタラにも置き換えができない固有のフレーズがあることにも着目しなければならない。

(102) 終わってみれば、（やはり／案の定）横綱の強さだけが光った。

(103) 柔道の受身になぞらえれば、いじめにも受身があってよい。

本稿はレバの記述に際して、できりだけ統一的な説明を与えようと試みたものだが、筆者の語感、内省に関わる個人差、言語観もまた否めないところも

あって、これをバの特徴とする有力な論証となるかどうかは、さらに検討を要するところも少なくない。

レバ条件文の機能を文脈的な特徴のなかで考察するには、このほか、条件形後置詞（ニヨレバ、ト思エバ、ト言エバ、トナレバ、トスレバ）や副詞フレーズなどの課題が残されている。さらに、談話、会話な分析ではレバでいいさす文、さらにレバとノデアレバ、ノデナケレバなど「ノ」の介入が見られるもの、レバの丁寧化、待遇的な特徴が当然、議論にのぼらなければならない[8]。たとえば、同じ順接ではレバとテハの重なりが

(104) a. 郷に入ってては郷にしたがう覚悟だ。

b. 郷に入れば郷にしたがう覚悟だ。

のようにしばしば観察され、レバとテハが前後して用いられる場合がある。

(105) そうした場合、もしも進入をためらっておれば、タイ国軍の戦備は一層ととのえられるだろうし夜が明けはなたれてから作戦行動をおこしてはタイ国軍の抵抗もはげしさを増すにちがいない。

（大本営が震えた日 p.233）

一方、順接のレバと逆接のテモが連続して用いられるケースも見られる。

(106) a 上を見れば切りがないし、下を見れば切りがない。

b. 上を見ても切りがないし、下を見ても切りがない。

これはレバが本来の条件の意味を希薄なものとし、もっぱら機能的にテモと同じような並列の意味をあらわしている。こうした現象についても、別の機会に考察してみたい。

【備考】

本研究は平成 16 年度、大東文化大学海外長期研究の成果の一部である。英国ロンドン大学滞在中にさまざまな助言を惜しまれなかった同大学 SOAS（東洋・アフリカ学院）のバルバラ・ピッツィコーニ博士に感謝申し上げる。

【注】

(1) 文の構造的な内在性とそれを囲繞する文脈的な外在性については、工藤(2005)を参照。

(2)「行けバ」「食べレバ」「暑けレバ」などの形態的特徴からバ、-e バと称することもあるが、本稿ではレバ（条件文）と称することにする。

(3)「虎穴に入らずんば虎児を得ず」（「虎穴に入らなければ虎児を得ることはできない」）のような文語的な表記についても同様に見なす。なお、諺、格言のほかにも、

黙って座ればピタリと当たる。

心頭を滅却すれば火もまた涼し。

などの慣用・慣例的な言い回しもレバによる表出の特徴である。

(4) 有田・蓮沼・前田(2001), p.19-21, p.40-41 の要約を多少改編し、参考までにその他の条件形式の適否を注記した。なおナラの使用条件については本稿ではふれない。

(5) こうした特徴をふまえながら、田中(2005)ではレバの特徴を「利害発生、内省判断」型と規定した。タラのもつ伝達的な主観性に対して、表出に重きがおかれる。

(6) このほか相関する形式としてはおよび＜…バ…ホド＞と「につれて」などの漸進性をあらわす形式の交渉があげられる。田中(2001)を参照。

(7) ＜…バ…モ＞と＜…シ…シ＞の相関については小林(1994)を参照。

(8)「ノデナケレバ」は前文の全体を外側から否定し、＜P ナイ限り＝オイテハ Q ダ＞という話し手側の限定条件をあらわす。

……怒ったところで事故の処理が早まるのでなければ、黙っていたほうが賢明かもしれない。　（長く暑い夏の一日 p.135）

【参考文献】

有田節子、蓮沼昭子、前田直子(2001)『条件表現』くろしお出版

工藤浩(2005)「文の叙述性と機能」『国語国文学』第 231 号　東京大学国語国

文会
小林幸江(1994)「接続助詞『シ』の文論的考察」『東京外国語大学留学生日本語教育センター紀要』20号　東京外国語大学留学生日本語教育センター
田中寛(2001)「漸進性をあらわす後置詞」『大東文化大学紀要』第42号
田中寛(2004)『日本語複文表現の研究』白帝社
田中寛(2004b)「複文研究と日本語教育」未公刊。英国日本語教育学会ワークショップ配布資料(.於：英国国際交流基金ロンドン日本語センター、2004.10.23)
田中寛(2005)「条件文・条件表現の体系的研究：序章」『大東文化大学紀要』41号
前田直子(1995)「バ、ト、タラ、ナラ――仮定条件を表す形式」『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』くろしお出版
益岡隆志(1997)『複文』くろしお出版
益岡隆志(2002)「条件表現」『複文と談話』（2章の複文各論の2節 p.73-92）岩波書店
益岡隆志(2006 予定)「日本語における条件表現形式の分化」　益岡隆志編『シリーズ言語対照　条件表現』くろしお出版

【用例出典】

松本清張『歪んだ複写』(新潮文庫 1966)、吉村昭『大本営が震えた日』(新潮文庫 1981)、同『秋の街』(中公文庫 2004)、松本清張『一九五二年日航機墜落事件』(角川文庫 1994)、前間孝則『亜細亜新幹線』(講談社文庫 1994)、立原正秋『冬のかたみに』(新潮文庫 1981)、渡辺淳一『長く暑い夏の一日』(講談社文庫 1988)、各種新聞。このほか、『日本語文法８Ⅰ、Ⅱ』(早稲田大学日本語研究教育センター試用版 2005) から例文を一部引用した。